#### 第23回東北地区舟艇利用振興対策連絡会議資料

平成30年 貞山運河全体と『貞山運河御舟入堀』利活用への提言等の活動報告

平成31年3月18日

一般社団法人日本マリン事業協会東北支部 南地区分会長 鈴木 雅博

#### 平成30年度活動報告

H30年 1月 貞山運河・『御舟入堀』利活用への提言を提出

資料として平成22年と30年の御舟入堀放置艇等の比較画像や利活用案など添付

提出先 宮城県の河川と港湾管理者

七ヶ浜町、多賀城市、塩竈市

東北運輸局海事振興部、東北地方整備局塩釜港湾・空港整備事務所

塩釜商工会議所他観光経済団体等

自社HP内へアップ(貞山運河利活用で検索できます)

主な内容 長期的な視点での運河利活用

運河利活用に関わり、目標とすることとクリアーすべきハードル

6月 小舟で巡る・貞山運河「御舟入堀」復興状況視察会を開催

参加者 1月の提言を提出させて頂いた先、全ての方々にご参加いただきました。 (内容等は、添付資料の新聞記事をご参照ください。) 85名、和船9隻、カヌー8隻にて遊覧

- 7月 宮城ケーブルテレビ「千賀の浦のお散歩隊」で御舟入堀を海面から撮影し史跡としての利用 と保存をテーマに現状を確認してもらいました。
- 7月 塩竈みなと祭りのサブイベントとして、一般市民を対象に御舟入堀を遊覧してもらいました。 港内でのカヌー体験と御舟入堀ショートクルーズに市民80名が参加しました。
- 8月 塩釜商工会議所議員懇談会において御舟入堀を遊覧視察して頂きました。
- 9月 塩竈港ボート天国2018においてカヌー体験と御舟入堀を含むショートクルーズを開催しました。
- 10月 全国運河サミットin宮城のローカルサブイベント(マリンゲート塩釜会場)において、 運河の現状と利活用等に関わるパネル展示に参加しました。
- 12月 御舟入堀沿い(貞山橋)にイルミネーション設置しました。12月1日~1月3日
- H31年 2月 宮城県貞山運河「御舟入堀」放置艇対策への提案を作成しました。 H31年3月にH30年6月2日の視察会に参加頂いた先々へ提出予定です。

以上、

活動概要添付資料

6月2日視察会の新聞記事2件、塩釜商工会議所ニュース(6月15日と9月15日) H31年2月の放置艇対策への提案文書

# 山運河 利活 一視察

の利活用を図る視察会が2 山運河の一つ「御舟入堀」 スを往復し、東日本大震災 船で出発して約3歳のコー を見て回った。 は塩釜市のマリーナを小型 資を運ぶ大動脈だった貞 傷跡や今後の改善点など 現地であった。 期から明治にかけて 参加者

支部が主催し、県、塩釜市、 くにある舟運の壁画を見て 境などを確認した。 団体などから85人が参加。 型船やカヌーに分乗し 多賀城市大代の中峰橋近 護岸の復旧工事や新 七ケ浜町、

ない」と話す参加者がいた 知らなかった。もったい

日本マリン事業協会東北

の鈴木雅博・南分会長は ミット・ロのやぎ」を盛り 仙台市で開く一全国運河サ 上げる目的。 ほか、「思ったよりきれい 水の上で遊ぶ人を増やし 視察会は県などが10月に 震災前と比べてコンクリ トの景観は温かみに欠け との感想が聞かれた。 遊びながら歴史を学 協会東北支部

御舟入堀は塩釜港(塩釜 と七北田川河口の蒲岩 理解を深め、 郷土愛

江戸時代の舟運の様子を描いた壁画を見ながら堀の利活用を 考えた参加者

河北新報社主催

(県吹奏楽連盟

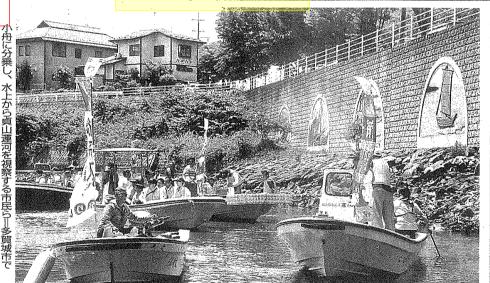
楽器ソロ

や高校生80人がフル などの独奏で競った。 トランペット、マリ 高賞の県吹奏楽連明 仙台市向陽台中 加美町の中新田 ルで開かれた。

(第3種郵便物認可)

毎日新聞

河北新報



## 復興を水

加入小舟に 魅力を再確認した。 から計約10世を往復。

視察会

視察会は、日本マリ

艇」の現状も確認した。

釜、多賀城両市一帯で開かれた。地元の行政や

商工・観光関係者、歴史や環境関連の市民グル ープなど約100人が小舟に分乗して塩釜港

土木遺産でもある堀の

置や不法係留の も目立ち始めた船の放 立てた小舟から、震災 などの史跡をつぶさに 様子を描いた陶板壁画 係留施設、昔の舟運の 後の護岸工事や新しい ・守り隊」ののぼりを 参加者は「御舟入堀 きで、江戸、明治期には 米や物資を仙台に運ぶ 口(仙台市)を結ぶ約7 は塩釜港と七北田川河

主催。塩釜市北浜でマ (63)が小型船やカヌー 分会長の鈴木雅博さん 取り組む同支部南地区 リーナを運営し、運河 ン事業協会東北支部が や松島湾の再生活動に の運河と三つの堀を総 称する水域。御舟入堀 隈川(岩沼市)間の二つ 北上川(石巻市)~阿武 公一の名にちなみ、 を愛する仲間を増やし 名所になりうる。水辺 整えれば、遊びながら 命じた伊達政宗―貞山 歴史も感じられる観光 たい」と話した。 貞山運河は、開削を 鈴木さんは「環境を 田

を用意した。

## 資料

小山美空さん(14)が輝

3)

16版

資料

#### 「御角入場」の現状を知る 親話用で復興を 貞山運河で視察会

6月2日、貞山運河「御舟入堀」を巡る視察会が 開催されました。佐藤昭塩竈市長をはじめ、国や 県、関係団体から85名が参加、当所からは桑原茂 会頭、三浦一泰専務理事が参加しました。

伊達藩政の時代からの舟運の歴史に目を向け、運河の今後の在り方を考えることを目的としたもので、一般社団法人日本マリン事業部東北支部南地区分会(会長・鈴木雅博㈱くろしお社長)が主催しました。

参加者は、北浜マリンベースから小船に乗り合って出発、放置艇がずらりと並ぶ様子や新しい防潮壁、震災のままの護岸など、約3キロのコースを視察しました。舟運の壁画がある多賀城市大代の中峰橋の下では、子供たちのカヌーも参加し、記念撮影をしました。

主催者を代表しあいさつする鈴木雅博東 北支部南地区分会長。「これからの運河 再生のため、まずは現状を見て下さい」 ●見画運江 学をを戸 し船描時 ま上い代

ました ました ました



しかたの

遊ぶことができ、歴史も感じる運河史跡としての 利活用など、今後の方向性を感じることが出来た視 察会となりました。

なお、宮城県では、10月に仙台市で「全国運河 サミットinみやぎ」を開催することとしています。

塩釜商工会議所ニュース9月15日号

資料

# 「御舟入堀」の利活用を探る

### 小舟で貞山運河を巡り現状を視察 役員議員で洋上視察会

8月30日、議員懇談会を開催、洋上視察会として、貞山運河「御舟入堀」を巡りました。当日はあいにくの雨模様となりましたが、役員議員など38名が出席しました。

まず、マリンゲート前から小舟に乗り合って出発し、数多くの放置艇が並ぶ護岸や整備された防潮堤、 舟運の歴史にふれることができる壁画などを視察しました。

視察後、㈱くろしおの鈴木雅博社長からは、伊達藩政の時代からの舟運の歴史と運河利用の現状や課題、今後の利活用の可能性などについて、説明をいただきました。

参加者からは、「船上から運河を巡ることができた ことは、またとない機会で

いただきました 歴史や現状について説明を しおの鈴木雅博社長から、 し、視察しました。㈱くる 参加者それぞれ小舟に分乗



した。雨模様で急ぎ足になってしまって残念でした」などの声がありました。

視察会終了後は、北浜マリンベースの夕日に照ら されるオープンデッキで、雨に濡れた洋服を乾かし ながら、恒例の意見交換会を行いました。



▲江戸時代の舟運を描いた壁画(多賀城市大代)。今年 8月、多賀城市市民文化創造局主催で、ライトアップ されました



▲北浜マリンベースで意見交換会を行いました